

天保山客船ターミナルオープニングセレモニー (2024.5.5) 基調講演

大阪湾クルーズベイ構想と大阪港の役割



大阪府立大学名誉教授・大阪公立大学客員教授
日本クルーズ&フェリー学会初代会長・現事務局長
池田良穂

クルーズの2種類のビジネスモデル

伝統的クルーズ

(大洋横断定期客船の1等が原点)

高齢の富裕階層向け

長期・高価

ワールドワイド・不定期

➡ラグジュアリー・クラス



➡プレミアム・クラス



現代クルーズ

(1960年代後半カリブ海発祥)

一般大衆・現役世代・家族

短期・安価

固定水域・定点定期

➡カジュアル・クラス



超大型カジュアル船 = 動く I R

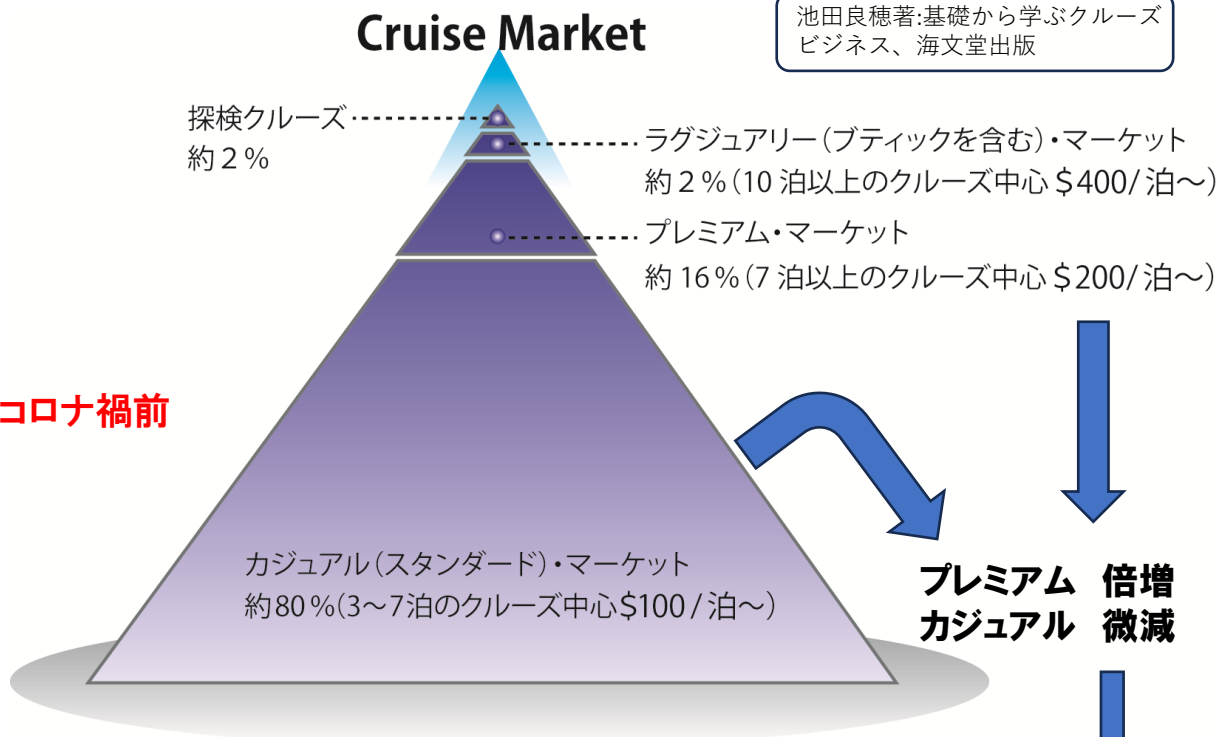


- ・オールインクルーシブ
- ・リーズナブルプライス
- ・フリーダム・オブ・チョイス

新型コロナ禍後のクルーズマーケットの変化

池田良穂著:基礎から学ぶクルーズビジネス、海文堂出版

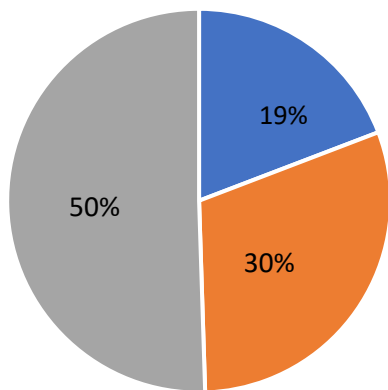
新型コロナ禍前



プレミアム 倍増
カジュアル 微減

クルーズ客船隻数

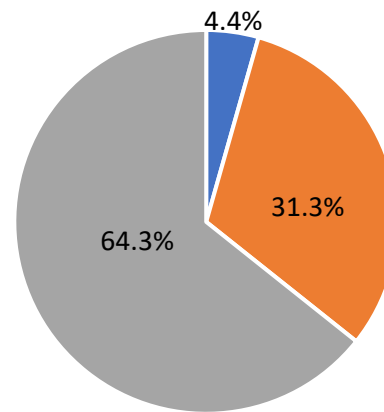
新型コロナ禍後



■ ラグジュアリー ■ プレミアム ■ カジュアル

2022年現在供給量

クルーズ客船下段ベッド数

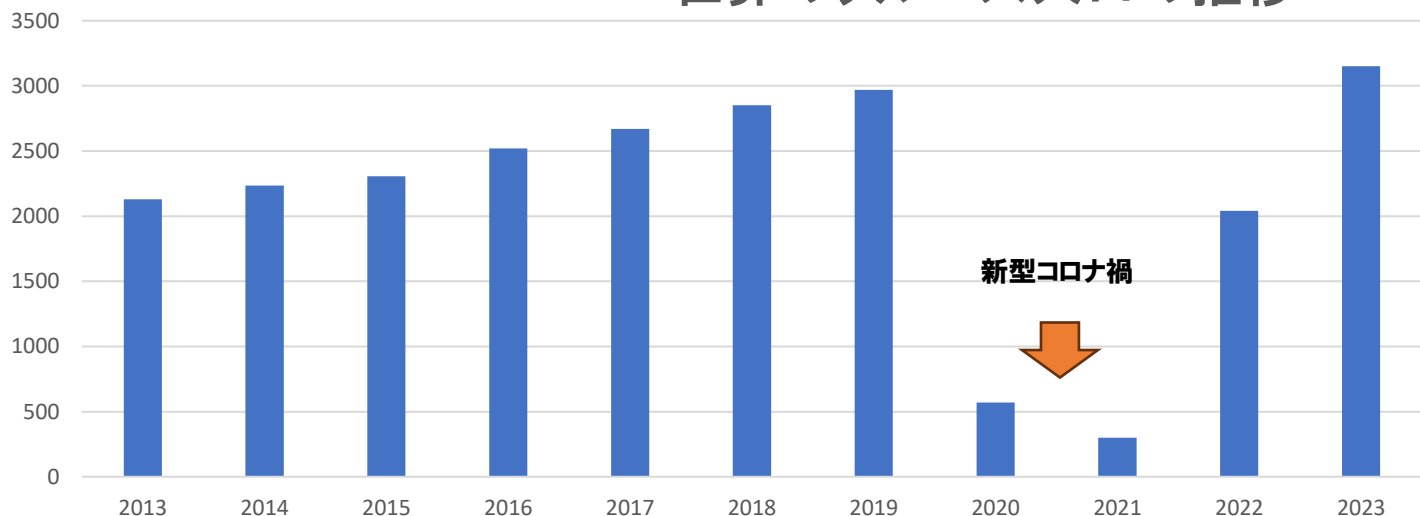


■ ラグジュアリー ■ プレミアム ■ カジュアル

世界のクルーズ業界の現状(2023年)


- クルーズ人口**3200万人** (2019年比 +7%)
内訳:北米1810万人(+18%)、欧州820万人(+7%)、
アジア230万人(-38%)、オセアニア134万人(-1%)
- クルーズ客の**平均年齢 46才**
- **家族連れ比率: 39%** (2世代家族28%、3世代家族11%)
- **経済効果(CLIA予測): \$207billion(31兆円** \$1=150円換算)
- **雇用 120万人**

世界のクルーズ人口の推移



訪日クルーズ客の消費額

2023年度(観光庁調査)

- ・ 訪日外国人 1人・1泊当たりの旅行支出: **20,803円**
(内訳: 宿泊費7201円、飲食費4705円、交通費2371円、
娯楽サービス費1064円、買物代5465円)
 - ・ クルーズ客 1人・1泊当たりの旅行支出: **29,131円** **(+40%)**
(内訳: 宿泊費7円、**飲食費**1832円、交通費742円、
娯楽サービス費269円、**買物代**9521円)
- 

大阪港でのクルーズの経済波及効果

(2010年 大阪府立大学田口・池田の推計*)

●仮定

- ・70000総トン、2500人定員のクルーズ客船
- ・大阪発着1週間定点定期クルーズを年間実施

●経済波及効果の推計

- ・起点港 207億円/年(大阪市内)
- ・寄港港 20億円/年(大阪市内) (近畿では55億円)

●裾野の広い経済波及効果

観光・商業・農水産業・港湾・輸送・工業……………

*田口順等・池田良穂: 大阪港を起点とする定点定期クルーズによる経済波及効果、日本クルーズ&フェリー学会論文集、第1号、p.25~34、2010.3

10年後の予測 (2015年調査時)

■ 日本市場 : 20万人 ⇒ 120~150万人 ⇒ **未達成**

(**仮定:現代クルーズモデルが導入されれば**)

- ・ 関西(大阪/神戸) 40~50万人
- ・ 関西起点船: 7万トン級船 4~5隻/週

■ 中国市場: 60万人 ⇒ 250~300万人 ⇒ **既にほぼ達成**

(**仮定:現代クルーズモデルが導入されているので**)

- ・ 関西寄港船: 7万トン級船 8~10隻/週

■ 年間経済波及効果: 960億円~1200億円

天保山客船ターミナルの強み

・クルーズ寄港港としての強み

- ・観光・商業施設との合体
- ・市街地と隣接
- ・大阪中心部との地下鉄での連結
- ・高速道路出入口と隣接

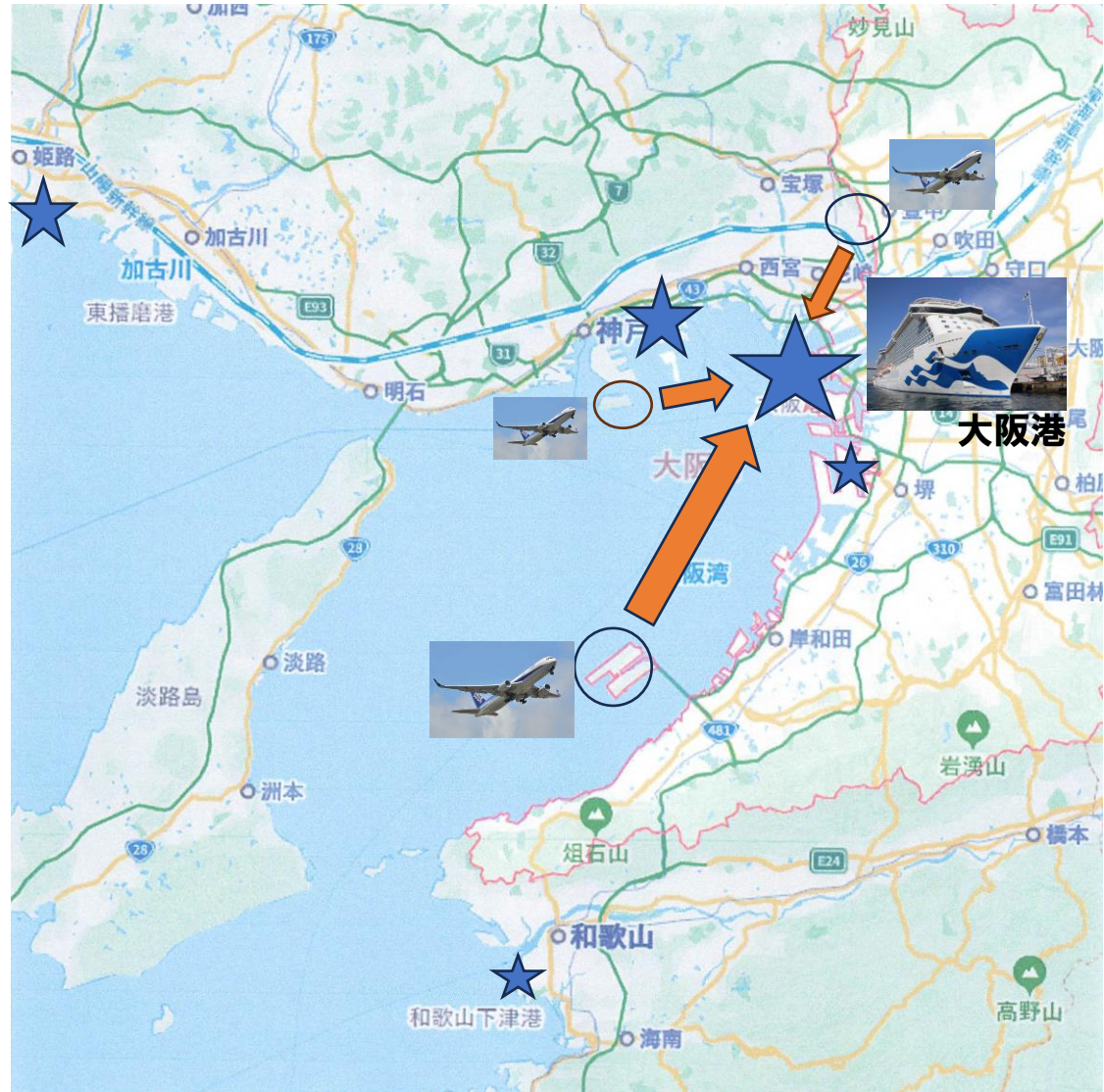
・クルーズ発着港としての強み

- ・3つの空港の存在（関西国際空港・大阪国際空港・神戸空港）
- ・世界最大規模のクルーズ客船まで受入可能な港湾設備
- ・大人口のマーケットポテンシャルの存在
- ・知名度の高さ(広域観光: 大阪自体+京都・奈良へのゲートウェイ)

大阪湾クルーズベイ構想（広域で考える!!）

2018年日本クルーズ&フェリー学会講演会で提案・議論

- ・ フライ&クルーズのハブを形成
 - ・ 関西国際空港・大阪国際空港・神戸空港との連携
 - ・ 国内各地・アジア各地・欧米から集客
- ・ 受入港の広域化:
 - 大阪港・堺泉北港・神戸港・姫路港・和歌山港・徳島港
- ・ 寄港地観光の広域化
 - ・ 経済波及効果の広がり
 - ・ 観光公害(オーバーツーリズム)の緩和



新造クルーズ客船への期待



新造船発注量(2023.4現在) 計81隻
内訳: 超大型船: 27隻、大型船: 26隻、
小型船: 28隻

船の基本から最新情報まで 船のすべてがわかる!

地球環境と共存する重要インフラである「船」の最新情報がわかると共に、船が開く未来が見えてくる!

講談社



好評発売中!

船の科学 池田良穂 著
定価1,210円(税込)
ISBN 978-4-06-682315-5
nqb53921@pifty.com

新書版



海文堂出版

2023年10月発売!

船の基本 池田良穂 著
定価3,520円(税込)
ISBN 978-4-303-12130-3

船の形態・用途・構造など幅広い解説から、最新鋭の船舶技術の紹介まで、スペシャリストを目指す人のための入門書!

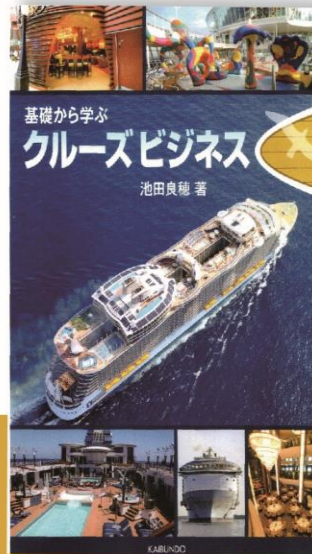
B5版

クルーズの第一人者である池田教授がわかりやすく解説

- クルーズとは何か? クルーズの楽しみ方
- クルーズの歴史 現代クルーズの特徴
- クルーズマーケット
- 港湾との関係

2018年4月発売!

基礎から学ぶクルーズビジネス
池田良穂著
定価(本体2,800円+税)
発行 海文堂出版
ISBN978-4-303-56220-5



なぜクルーズが世界中でブームとなっているのか?

クルーズビジネスの今を学ぶ!